

医療従事者応援 羽毛製造会社が市民病院に寝袋と防護服贈呈



贈呈に対して江藤院長より
感謝状の贈呈もありました

医療従事者を応援しようと、神奈川県相模原市に本社を置く羽毛製品の製造・販売を行う東洋羽毛工業株式会社が、串間市民病院に寝袋2枚と防護服10着を贈呈しました。同社の社会貢献活動の一環で、全国の医療機関や介護施設などに贈呈を行っています。贈呈式は同病院で行われ、グループ会社の東洋羽毛九州販売株式会社鹿児島営業所の永留大^{だい}将^{すけ}さんから江藤敏治院長へ手渡しました。永留さんは「コロナ禍の中医療現場で従事する方々に対して感謝の気持ちを込めて贈呈した。今後も支援を続けていきたい」、江藤院長は「大変ありがたい。スタッフが仮眠する際などに使わせてもらい、今後も業務にあたっていきたい」と話していました。

有明小6年生が食育講座でしいたけのおいしさを実感

宮崎県の特産品である「乾しいたけ」について理解を深めてもらおうと、「宮崎県しいたけ振興会」は有明小学校で食育講座を行いました。6年生12人が参加し講義と調理実習を受講。講義ではJA宮崎経済連の職員らが、しいたけの栽培方法やうま味成分の「グアニル酸」が多く含まれることなどを紹介しました。調理実習では、地産地消を推進する食育ティーチャーの武田郁子さんの指導で「乾しいたけの味煮」を作りました。児童は講座を通じてしいたけのおいしさを実感していました。6年生の鬼塚芽衣さんは「だしがとても出ておいしかった。家でもまた作りたい」と笑顔で話していました。



しいたけに材料を詰める児童



講座ではパック詰め体験も行われました



できあがった味煮を試食する児童

市長コラム 上杉鷹山公の 防疫対策から 学ぶこと

2月8日に宮崎県独自の緊急事態宣言が解除され、感染拡大緊急警報に移行されましたが、感染者は断続的に発生しており、収束の兆しが見えない状況に市民の皆さまにおいては、大きな不安を感じていることと思います。そのような中、先日串間温泉いこいの里から、新型コロナウイルス感染症対策で昼夜を問わず奮闘している市民病院の医療従事者に対して感謝の特製弁当を贈呈していただきました。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

さて、時は江戸時代末期ごろ。日本全国で天然痘が流行し人々を脅かしている中、米沢藩9代目藩主の上杉鷹山公は、生活困窮者の支援や医療の無償提供などを行いました。鷹山公は天然痘により息子を亡くしており、その経験などから、早急に感染の状況把握をして防疫対策を命じ、皆で支え合う「共助」を促して常に民目線に立つて誠心誠意に対策を行い、難局を乗り切ったといわれています。その後も鷹山公は、



市民病院の医療従事者に特製弁当を贈呈した
串間温泉いこいの里の野口健一支配人に
感謝状を送る江藤敏治院長

領主として自ら新年行事を取りやめ亡き人をしのぶなど、人々の心に寄り添い続けたそう、その人柄や防疫対策から今日でも高く評価されています。鷹山公は次期藩主に藩主としての心得「伝国の辞を残しており、一節に「国家人民の為に立つ」とあります。政治家はよりよい社会をこのように築き上げるか活動年数ではなく、国民の為に何をしようかと改めて考えさせられました。2月号でもお伝えした「川を上れ(歴史をさかのぼって見識を深めよ)」の気持ちで私自身これからも歴史を学んでいきたいですし、かなうのなら今一番上杉鷹山公から直接指導を受けてみたいものです。まだまだ予断を許しませんが、引き続き感染防止対策を行っていき、一丸となってこの事態を乗り越えていきたいと思います。

地域おこし協力隊 活動日記



No.47 オンライン ○○(ニューノーマル)



かまくら かずゆき
金業 和幸さん

約240年続いた「地の時代」が終わり、「風の時代」に突入しました。地の時代とは物質文明です。この時代には、産業革命やフランス革命などが起こり、日本は遅れて明治維新が起こりました。物が大量生産され物質的に豊かになった時代です。風の時代は精神文明です。今までのモノの価値観からコトの価値観に変わる時代です。キーワードとしては、「一人ひとりの個性や能力」「ゆるいコミュニティ」「シェアリング」「フンセクシャル」「オンライン」「自由と博愛」「情報発信」などが挙げられます。物への執着から断捨離を行い、シンプルに心の思うように生き、趣味や特技を磨き発信する。このような生活様式(ニューノーマル)に変化していくことでしょう。新型コロナウイルスを前向きに考えるなら、このようなタイミングでの社会変遷は必然だったと思えてなりません。私のミッションは「移住促進」ですが、コロナ禍において就業者の約40%がテレワークを経験し、東京

圏の若者の約50%が地方移住に関心が高まったというデータがあります。都市部での暮らしに疑問を持つ若者が増え、過疎の問題、自己実現などが地方で暮らす真の価値観が生まれてきているのも事実です。風の時代にいち早く乗っている人は地方移住を視野に入れています。そうなると、あとは地方の問題。空き家、シェアリングエコノミー、起業、継業、新規就農…地方移住に向けた整備を早く進めていくこと。人口減少に向けたTを早く整備していくこと。産業もコトづくりに移行していくと思われず。串間市は過疎地域です。移住相談も新たな展開を迎え、まちづくりの観点から移住定住にアプローチする新たな取り組みも始めなければなりません。ニューノーマルはコロナ禍だけでなく、これからのスタンダード。グローバルにローカルを捉えた「グローバル」「ローカルベンチャー」を串間市で発信していきましょう。